

兵庫県医師会医療支援チーム（第3陣）「宮城県災害支援現地報告」

理事 妹尾 栄治

救護所をゼロから立ち上げていただいた第一陣の皆様には感謝します。我々が着任した時には、そのままで直ぐに診療できる救護所が出来上がっておりました。

震災から2週間経過して、被災者の方々は緊張の極限であった時期から、自分に降りかかった現実を認識しなければならない時期に移りつつあります。身体的にも精神的にもストレスが強まり、気道過敏性で咳が止まらない方、眠れない方、慢性疾患の持病が悪化する方が増えました。またかかりつけ医から処方されていた薬切れ、特にインシュリン切れへの対応が今後問題になってきそうです。起臥寝食の場を少しでも改善できれば良いのですが。



『・・・ちゃん、パパとママは・・・おじさんの家にいるからね。』
避難所には沢山の子どもを捜す伝言がはられています。

卒業にあたっての作品でしょうか。思いを綴った言葉に思わず胸がつまりました。
『まわり道でも迷ってもいい、そこにだけ咲く花を見つけるから。』



子供たちよ、頑張れ！もっともっと何とかしてあげたい。